

二〇三三年二月二日

胸元に柚子を抱きて長湯せり
人垣に餅搗く人の杵高く
散紅葉敷きつめてゐる駐車場
クリスマスソング唄ひつ厨ごと
百歳の手塩の冬菜頂きぬ

二〇三三年二月二日

幼な子の言ひ訳を聞く懐手
柚子風呂や大玉小玉犇めきて
風意地悪追ひつ追はれつ落葉掃く
恙き一年を謝す柚子湯かな
外套の襟を立てればわれ怪人

二〇三三年二月二〇日

過疎となり日曜菜園冬ざるるれ
暮早し門扉に掛かるお裾分け
ぽんぽんと柚子投げくれし庭師かな
すれ違ひ会釈でごめん年の暮
サンタ帽被り鎮座す盲導犬

二〇三三年二月一九日

観劇の半券が出し古日記
日記買ふまずは佳き日の予定書き

やよい

あひる

なおこ

康子

きよえ

みきお

澄子

康子

千鶴

素秀

せいじ

明日香

澄子

千鶴

智恵子

なつき

康子

着膨れて墨糸絞る宮大工

頬さすり美肌うべなふ柚子湯かな

踊場の面積占むる聖樹かな

二〇三三年二月一八日

犬小屋に飾るリースとサンタ帽

銃声の遠くこだます冬の山

二〇三三年二月一七日

底冷えや地団駄踏みつ神事待つ

折り紙の散らばるごとし紅葉坂

手遊びの木彫りのお椀蕪汁

書込み欄広きを選び暦買ふ

冬木立深く貫く落暉かな

二〇三三年二月一六日

クリスマスツリー競演アーケード

聖歌弾き継げる空港ピアノかな

素秀

康子

あひる

智恵子

素秀

明日香

康子

豊実

たか子

せいじ

たか子

なつき

毎日句会みのる選・二〇三三年二月二四日